

おもしろい みつけた!

《^{しょうがく}小学4・5・6年生^{ねんせい}》

1年の間に図書館に入った本を中心に、はばひろく

おもしろい本を紹介します。

茨木市立図書館 おもしろい本みつけた

検索

ホームページにものっています。

★^き気になる本^{ほん}をみつけたら、さっそくさがしてみよう!



『オレはどうくつ探検家』

吉田 勝次 作

(ポプラ社)

K450 450
(しらべもの)

^{ほん} (本の背ラベルです。)

2018年7月

吉田さんは、どうくつ専門^{せんもん}の探検家^{たんけんか}。暗い未知^{みち}の空間^{くうかん}に、自分のすべてを使って挑みます。どうくつ探検には危険もありますが、日々のトレーニングや持ち物のチェックなど、十分な準備^{じゅんび}をしている吉田さんは、大変なときにもなんだか楽しそう。ロープを使ってがけを登ったり、体の幅ぎりぎりのすき間をとおりぬけたり。うまくいかないときもあるけど、素晴らしい光景^{こうけい}に出会えることも! 迫力ある写真で、吉田さんとどうくつを探検している気持ちになれる本です。





『もうどう犬ベェベ』

セアまり 作

(ほるぷ出版)

平澤 朋子 絵

もうどう犬のベェベは、自分がほとんど見えないメグの目のかわりをしてしています。メグは、自分が見えなくなって家から外に出るのがこわくなりましたが、ベェベと出会い、かわりました。もうどう犬を家にむかえるため、最初にメグは、ベェベと共同のくんれんをしました。メグとベェベの生活の様子やおでかけの様子が、わかりやすく描かれています。また、あとがきには、もうどう犬のことやお仕事の内容などがさらにくわしく書かれています。

エーヨミモノーモ
(えほん)

モ

2018年7月



『昆虫の体重測定』

吉谷 昭憲 作・絵

(福音館書店)

みなさんは、学校の身体測定で体重をはかったことがありますよね。この本では、身近にいるいろいろな昆虫たちの体重を調べています。昆虫たちは、とても小さくて軽いので、作者の吉谷さんは、「電子てんびん」という特別なばかりを使っています。このばかりは、なんと1万分の1gからはかることができます。1円玉がほぼ1gなので、その1万分の1の重さというと、ものすごく軽いですね。てんとうむし、ヤブカ、かぶとむしは、どのくらいの重さがあると思いますか？

K486
(しらべもの)

486

2018年6月



『消えた時間割』

西村 友里 作

(学研プラス)

大庭 賢哉 絵

墨汁がこぼれた部分の時間割表の教科がなくなった!?ただの墨汁ではなく不思議な墨汁だったんです。いやな勉強の時間がなくなったり、にがてな体育の時間が消えたら、ちょっとうれしいけれど、いろいろな事件も起こります。

まちにある古いお寺の言い伝えをしらべたところ、江戸時代にいたお坊さんが墨で書いたものが消えたという話が見つかりました。昔々の墨が、今の時代に残っていたのでしょうか…。

ニーニシ
(にほんのよみもの)

に
ニシ

2018年5月



ニーヨコ
(にほんのよみもの)

に
ヨコ

2018年4月

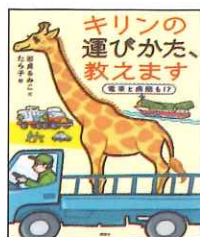
『ピワイチ! 自転車で琵琶湖一周』

よこやま みつお 著

(ぶんけんしゅつぱん
(文研出版))

よこやま ようへい 絵

6年生の斗真は幼なじみの一太とサイクルショップ企画のピワイチ(自転車で琵琶湖一周)に参加します。知らない女の子2人と男の子1人、それにコーチと店主で準備と練習をして出発しました。自転車の故障、遅れがちなメンバー、おしりがヒリヒリなど次々に困難にあいながら、性格も行動もまったく違う子どもと大人で一泊二日のコースを走ります。自転車のことや琵琶湖のこともよくわかる、関西の子どもなら一度は挑戦したくなるような「ピワイチ」のお話です。



K916-イワ
(しらべもの)

916
イワ

2018年6月

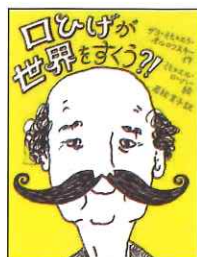
『キリンの運びかた、教えます』

岩貫 るみこ 著

(こうだんしゃ
(講談社))

たら子 絵

あなたの目の前にある全ての物は、誰かが「運んでくれたもの」です。お店に買いに行かなくても、インターネットで検索してクリックするだけで物が買えるようになった今、運んでくれる人たちのことを考えたことはありますか? この本では、何かを運ぶ時にたくさんの人が協力する姿や、運ぶ人のプロとしての責任感などが描かれています。キリン、鉄道車両、子ども病院...これらの物を一体どうやって運ぶのか。運ぶ人、運ばれる物を大切に思う人たちの気持ちを感じながら、読んでみてください。



セーオル
(せかいのよみもの)

せ
オル

2017年11月

『口ひげが世界をすくう?!』

ザラ・ミハエラ・オルロフスキー 著 (いわなみしよてん
(岩波書店))

ミハエル・ローハー 絵 若松 宣子 訳

世界ひげ大会に出てチャンピオンになる。大好きなおばあちゃんが亡くなり、元気をなくしていたおじいちゃんが、突然そんなことを言い出しました。家族には反対され、町の人たちからもバカにされますが、孫のヨーヨーだけは、おじいちゃんを応援します。果たして、ひげ大会優勝の行方はどうなるのでしょうか。その先でおじいちゃんと口ひげを待つ意外な結末にも注目です。さまざまな困難にぶつかりながらも、夢にむかって奮闘する2人の姿が楽しく描かれています。

